

# 看護教育とグローバルの 両立による国際人材育成

私立大学等改革総合支援事業タイプ4（選定：平成28～29年度）



## 聖路加国際大学

### 取組のポイントや補助効果

- ◆ 大学にとってのベンチマークとしての活用
- ◆ 改革に係る財源としての活用

聖路加国際大学は、1920年に設置された聖路加国際病院附属高等看護学校を前身とし、1964年に聖路加看護大学となり、「キリスト教精神に基づき、看護保健・公衆衛生の領域において、その教育・学術・実践活動を通じて、国内外のすべての人の健康と福祉に貢献すること」を理念に、高度な看護教育を行ってきた。

2014年には半世紀にわたって用いた聖路加看護大学という名称を「聖路加国際大学」に変更し、さまざまな看護教育カリキュラムの改革に取り組んでいる。2016年、2017年には改革総合支援事業のタイプ1（教育の質的転換）、タイプ2（地域発展）、タイプ4（グローバル化）に選定されており、補助事業の内容と学内で実践している取り組みを連動させて改革を推進している。

### 取組の目標・目的

大学名に「国際」の名を冠する当大学は、専門領域に加え、語学教育や留学に重点を置き、国際的視野を備えた看護・保健人材の育成を目指している。質の高い教育の実現を目指し定量目標・定性目標を設定する中で、私立大学等改革総合支援事業の設問項目をグローバル化への一基準として捉え、「グローバル化対応指標」として、要件を満たしてい

ない項目達成に向けて取り組みを行った。

### 取組に至る背景や問題意識

2014年、別法人であった聖路加国際病院と聖路加看護大学の法人一体化に伴い「聖路加国際大学」に名称を変更し、創設以来の方針である国際水準の追及を一層推し進めるべくこの私立大学等改革総合支援事業を積極的に活用した。秋入学の実施、外部語学試験受験のための学習支援、入試制度改革、Eラーニングの導入など、この私立大学等改革総合支援事業の項目の一つ一つを実践することを短期的目標とし、自己財源を戦略的に投じて改革に取り組んできた。また、「トビタテ！留学JAPAN」など、国が国際人材育成に力を入れる時期と重なり、高等教育機関全体でグローバル化対応への機運が高まっていたことも改革を推し進める大きな要因となった。

### 取組内容

#### ≡ 留学教育

従来から欧米等の先進的な医療技術を学ぶ留学に力を入れていた。しかし近年では国際経験が人格形成において優れた教育効果を発揮するという点に着目し、人格形成を目的と

する留学に力を入れている。この留学は医療従事者に必要な人間理解を深めることに役立つ、日本と異なる文化、社会、医療の仕組み等を体験することにより看護対象者の多様性の理解などにつながっている。

また海外の現場を経験した学生は探求心が強くなる傾向があり、留学後の学修に意欲的に取り組んでいる。さらに、看護師としてのアイデンティティーの確立にもつながるといふ大きな効果も出ており、単なる語学中心の留学とは違った特色ある留学教育となっている。

また、学習の深度により留学プログラムを選択できるよう、大学のカリキュラムにそうプログラムマップを作成している。語学・教養教育を中心とした研修、専門科目の学びが深まる上級学年向けの保健医療に関する研修など、多様なプログラムの中から異なる学びの機会を選択できる点が特長である。

### ≡ 語学力に優れた学生を対象とした入試

学部的一般入試について、英語資格・検定試験（実用英語技能検定、GTEC-CBT、

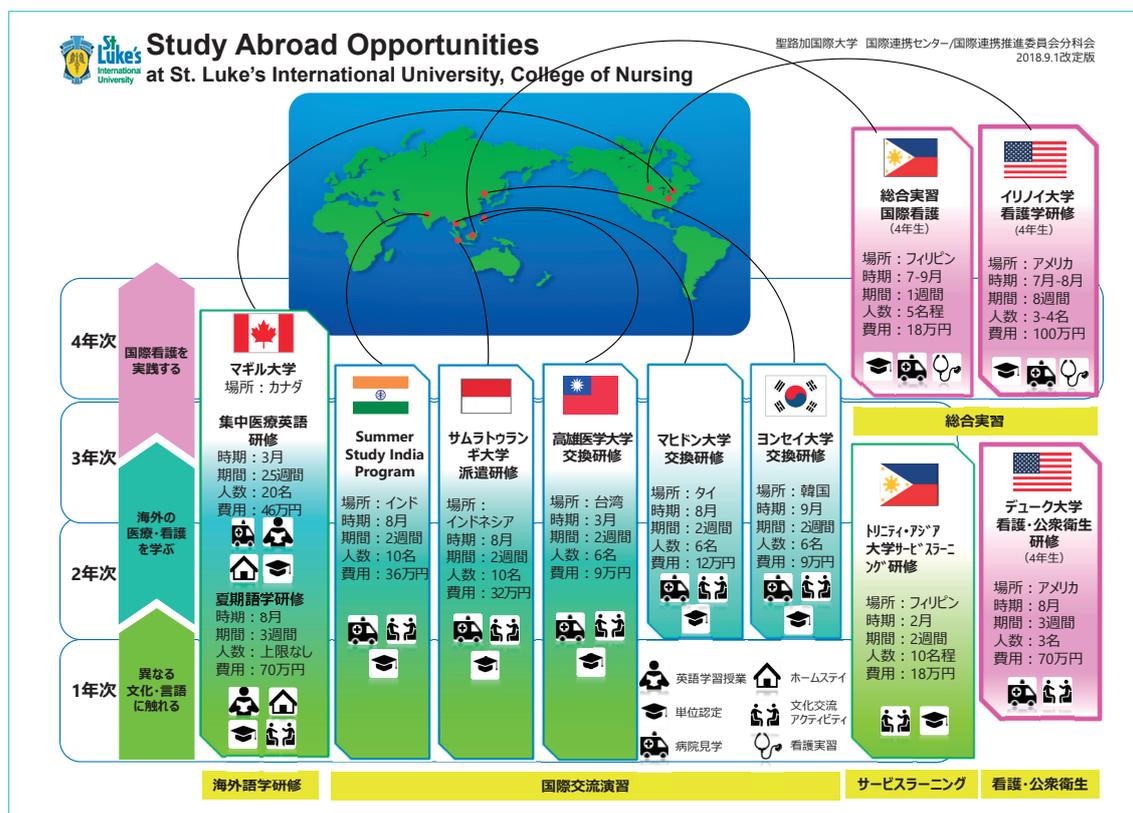
IELTS、TEAP、TEAP-CBT、TOEFL-iBT、ケンブリッジ大学英語検定）の基準以上のスコアを持つ受験生に対し、2017年度入試より「外国語」（英語）の入学試験を免除しスコアを入学試験の点数として換算する制度を導入した。

この制度を採用する前から当大学の「外国語」の入試問題は高いレベルで実施されており、入試時点から語学力を重視している。またその試験問題は医療系の内容を多く含み、看護大学として独自の特色を持つ入試を実施している。

### ≡ 外国語支援のためのEラーニング

当大学では、総合的な英語力の向上や英語検定試験の演習など、幅広い目的やレベルに対応するだけでなく、診療英会話のリスニングなど医学・健康関連の英会話の学習もできるEラーニングソフトを導入している。

このソフトはインターネットに接続しているため学生の受講履歴を追うことができる。この機能により学生の学習状況を把握するこ



聖路加国際大学の留学プログラム図

とができ、英語必修科目等の課題としても幅広く活用されている。このEラーニングの実施は、私立大学等改革総合支援事業の設問項目として示されていたことで学内のコンセンサスを得ることができた取り組みである。

### ≡ アクティブ・ラーニング施設について

アクティブ・ラーニング施設としてグローバル化における能動的な学習姿勢を引き出すために、英語担当教員や学習支援担当職員との協議を重ねて設置したラーニング・コモンズがある。

ラーニング・コモンズには、英語のライティングの専門教員が対面で指導する「アカデミック・ライティング・デスク」と、海外からの留学生が日替わりで常駐し英語でのコミュニケーション機会を提供している「インターナショナル・ランゲージ・カフェ」がある。

このカフェに在中している留学生と日本人学生は自由にコミュニケーションを取ることができる。さらに、物品の貸し出し等を留学生に行ってもらうことで、英語を使わなければいけない環境を整え、学生が自ら積極的にコミュニケーションを取る機会を増やしている。

留学生が各国保健事情を英語で紹介するミニセミナーなどのイベントも開催している。



留学生によるミニセミナー

### ≡ グローバル化に向けたFD・SDについて

当大学は、「国内外のすべての人の健康と福祉に貢献すること」を教育理念に掲げてお

り、留学生の受け入れにも力を入れている。

留学生の対応に関するFDについては、専門科目を英語で開講している教員を講師として、シラバスの作成や授業資料の事前共有と課題の提出、実際の留学生とのコミュニケーション等における課題など授業運営のノウハウの共有を行っている。

SDとしては、留学生を支援している部門の職員を講師とし、留学生の在留資格の要件等の説明を行っている。その際に日本での生活で必要となる支援等についても事例を紹介しており、学生・教務部門のスタッフが留学生に対しての理解を深める場となっている。

また語学力の面のFD・SDとして、教職員も前述のEラーニングの使用は可能で、国際連携センターにおいて実施している簡易な医療英語講座にも参加できる。2018年からは学生向けのTOEIC講座を教職員が受講できるなど、学生だけではなく、教職員の語学力の向上にも力を入れている。

## 実施体制

補助金の取り扱い事務体制については、大学事務部ですべての設問項目をまとめ、現状を把握するために関係部署に確認を依頼している。また、同時に教授会やあらゆる会議体において情報共有を行っている。

設問内容の基準に達するためには何が足りないのか、基準に達するためにはどうすればよいのか、という議論や質問については大学事務部から各部署に対しヒアリングを実施している。このように現場レベルで検討、協議した内容を学長、学部長、研究科長からなる大学運営会議にかけ、設問への対応とその方向性を決定している。

## 取組後の変化

「聖路加看護大学」から「聖路加国際大学」へ名称を変更し、看護分野における先進的な



現在の大学名プレート

教育への取り組みと、国際人材育成のための変革を両輪で推し進める挑戦の日々は5年目を迎えている。語学力の優れた学生を獲得するための入試改革や、将来の看護リーダーとして必要とされる発信力を培う英語教育の充実、多様な留学プログラムとその費用を支援する大学独自の奨学金など、目指す人材像を育成するさまざまな取り組みを展開してきた。これらの取り組みが実際に志願者数やオープンキャンパス来場者数増加に結び付いており、大学の目指す改革の方向性が学外から評価されているという確かな手応えを感じている。

受験生については、留学などを中心にグローバル化に力を入れた取り組みの結果として、国際的な枠組みで活躍したいという意識を持った者が多く受験し入学してくるようになった。

また、一年次に実施しているオリエンテーションセミナーでは「国際化」の話題が多く挙がり、保護者会においては留学や国際化に関する質問が増えていることから、学生、保護者から国際大学として認識されてきたと実感している。さらに、学外においても「国際的」な看護師を育成する大学という評価が高まり、単に看護師を育成するという大学から、「国際的に活躍できる能力を有する看護師を育成する大学」という、より高いブランド力を構築することができた。

## 成功のポイントや苦労した点

看護学という制限のあるカリキュラムの中にグローバル人材を育成する取り組みを含めていく点についてさまざまな努力を要した。この取り組みを成功に導くことができたポイントは、教職員の間で私立大学等改革総合支援事業の設問項目が国の求める基準であるという意思統一ができたことと、教職員が一丸となって現場レベルで対応ができる体制を構築できたことである。

また私立大学等改革総合支援事業の各種取り組みについて大学のグローバル化への必要性や実現の可能性を考慮して、計画的に実施できたことも成功のポイントであった。

## 今後の課題・展望

当大学では、「国際通用性のある高等教育機関になる」という目標を2025年までに達成すべく設定している。保健・医療分野において、国際的に需要が高い課題に対する教育研究を行うとともに、国際認証レベルの教育研究の質を担保することなどを通じて、国際的に存在感を示すことを目指している。

留学教育について、国際的に用いることができる看護系留学プログラムの尺度開発に着手している。留学プログラムの実施経験を踏まえ、質向上のためのPDCAサイクルを繰り返し、既存プログラムを改善していく。このように当大学が培った留学プログラムの運営・評価手法を海外に発信し、国際的に必要性の高まる医療者のグローバル教育の開発に貢献したい。

とりわけ看護分野については、看護の国際基準を視野に入れた教育・研究を行いつつ、学生および教職員の国際経験を積み重ねることにより、人的な国際流動性を高め、国際的に活躍できる人材のさらなる輩出を目指す。